

「なぜ、日本の精神医療は暴走するのか」(講談社)

佐藤光展



これからみなさんに紹介するケースの数々は、極めて衝撃的で現実離れしていますが、2010年代のまさに「今」起こっているノンフィクションです。

縛りまくる病院、殴りまくる医師、蹴りまくる准看護師、剃りまくる看護師、嘘をつきまくる准教授、全力で逃げまくる院長、そして無責任な公的機関などが各章に次々と登場し、深刻な問題を引き起こしていきます。

こうした人々や組織によって、患者の命や健康が脅かされ、奪われています。

暴走は、精神医療とその患者に対する日本社会の無関心さによって許され、促されています。被害者が必死に声を上げて、この社会は「頭のおかしな人がおかしなことを言っている」と、あっさり切り捨ててきました。

結果として、精神医療という名の人権侵害はますます深刻化し、強制入院や隔離、身体拘束が近年急増しています。年間18万人超が精神科に強制入院させられ、少なくとも1日1万人が法の名のもとに手足や胴体を縛られている。このような事態を異常と思わず、無視し続ける社会こそが異常なのではないでしょうか。

精神医療の惨状を本書で直視し、怒りや悲しみ、危機感を抱いたならば、ぜひ声を上げてください。

「今の精神医療はおかしい」と。
その一言が集まれば、精神医療は必ず変わります。
あなたや家族が、次の被害者にならないためにも。

————*★*————*

- 第1章 子供たちを縛りまくる病院
- 第2章 処方薬で踏み外した人生
- 第3章 拡大する身体拘束乱用と患者の死
- 第4章 健康な人も餌食になる強制入院
- 第5章 隔離と薬漬けの果てに—自閉症・串山一郎さんの突然死—
- 第6章 患者を殴りまくる精神科医
- 第7章 薬のインチキ臨床研究を患者が暴いた
- 第8章 「画期的検査法」の虚実
- 第9章 「開かれた対話」の未来
- 第10章 精神医療の暴走を支えるもの

————*★*————*

適切な精神医療を拡大させるために必要なのは、社会の関心と厳しい目です。
病気を治すどころか悪化させるおかしな診療に対しては、社会全体できっぱりとNOを突き付けて暴走を防がねばなりません。「少なからず治癒する」人たちを守るのか、それとも「破れた履物」のように切り捨て続けるのか。平成も終わろうとしている今、日本社会の民度が試されています。

本書は、数多くの患者とその家族、医療関係者の協力を得て完成にこぎつけました。過剰な事なかれ主義に嫌気がさして、大新聞の看板を捨てた私を、変わらず信じ、長期間の取材に快く応じてくれた人たちの思いが読者に届くことを願っています。

2018年11月

佐藤 光展